

ワース・グラント宣教師の生涯 1918~2005

はじめに

ワース・グラント宣教師¹の日本での働きに関しては、ご自身の著書²から多くのことを知ることができます。またこの著書は仙台教会の初期の歴史を知る手掛かりとしても、大変貴重で有益な資料となります。ただ、ご本人のアメリカでの経歴は詳しくは書かれていないため、そのあたりのことをもう少し調べようと思ったのですが、これがひと苦勞でした。やっとオンライン上で見つけたのが、古い「ミッショナリー・アルバム」(写真参照)の1ページで、グラント夫妻の顔写真とお二人の経歴が極小文字で記録されているものです。もう一つは、「パームビーチポスト」³という地方紙に掲載されたグラント師の死亡広告記事です。これらの資料をもとに、グラント宣教師の経歴と生涯を簡単にまとめておきます。

1. ワース・グラント師の経歴

ワース・グラント師は1918年(大正7)10月26日、アメリカ合衆国南東部、ノースカロライナ州ハイポイントに生まれます(地図参照)。ファーマン大学を卒業後(1941年)、ケンタッキー州ルイスビルにある南部バプテスト神学校に学び修士の学位を収めます(1944年)。グラント師はスポーツ好きでフットボール、ゴルフ、陸上を得意としていました。ゴルフに関してはホールインワンを2回経験し、また学生時代にはノースカロライナ州の大会において、陸上競技の円盤投げで3位を獲得しています⁴。

牧会の経歴も多様で、ノースカロライナ州トーマスビルのリバティー教会牧師(1941~1942年)、ケンタッキー州ルイスビルのオプティミスト・ボーイズクラブ主事(1942~1943年)、ノースカロライナ州キンストンのバプテスト孤児院牧師(1944~1945年)、アメリカ海軍チャプレン(1945~1946年)、ノースカロライナ州のウェルドン教会牧師(1946~1950年)などです。海軍チャプレン時代、1946年(昭和21)1月に短期間の日本滞在を経験しています⁵。主は既にグラント師の心に召命の種をお播きになられておられ、この時の短期間の日本訪問も主のご計画の一部だったのでしょう。

2. 来日とその働き

宣教師としての献身はグラント師自身への招きであると同時に、妻キャサリン⁶に対する招きでもなければなりませんでしたが、これに関しては全く問題はなく、「妻は私以前に神に招かれていたと思えるほど、私と意見の相違がなかった」と師自身が語っています⁷。そしてついに1950年（昭和25）3月22日、南部バプテスト連盟外国伝道局から、日本への宣教師として二人は正式に任命されることとなります⁸。

1950年（昭和25）8月23日の来日時⁹、ワース・グラント師は31才、妻キャサリン29才、長女ドナ6~7才¹⁰、そして次女アンジェラは3~4才でした（三女デボラ、四女キティーはまだ生まれていません）。最初の2年間は難解な日本語の学習に時間を費やしますが、記録では逗子教会の牧師の肩書も与えられていたようです（1950~1952年）。その後宣教師として、仙台教会（1952~1959年）、浦和教会（1959~1961年）で働き、ヨルダン社¹¹の副責任者及び女子大学での教員としての役割を果たします（1961~1968年?）。そして1968年（昭和43）から3年間、渋谷伝道所の牧師として働きましたが、宣教師としての先の17年間の経験は、牧師としての最後の3年間のためにあったようなものだ、とグラント師は回想しています¹²。

米国に帰国後ワシントン D.C.でウィクリフ聖書翻訳協会において働き、テンプル・バプテスト教会牧師を最後に引退しますが、その後香港に日本語教会を設立するため臨時宣教師として派遣されています¹³。こうして主のご用のために、グラント師の人生は豊かに用いられました。

2005年（平成17）12月18日、フロリダ州ウエストパームビーチの自宅で、師は安らかに天に召されました（写真参照）。87年の生涯でした。なおこの日は、仙台教会において臨時総会が開かれ、新会堂建築の設計業者を決定した日です¹⁴。ワース・グラント宣教師は、ご自身が信仰と情熱をもってその基礎を築き、そしてまたその初期の歩みを支え導いた日本バプテスト仙台基督教会が、新しい時代に向かって新会堂建築を具体化させたことをしっかりと見届け、安心して天国に旅立たれたのでしょう。

（文責：小林孝男）

¹ Worth Collins Grant 1918/10/26 生まれ、1927/9 受浸、2005/12/18 召天

² 日本バプテスト仙台基督教会 50 周年記念事業として、グラント宣教師の著書 *A Work Begun* (『主の息吹の中で』) 及び *Japan with Love* (『ワース・C・グラント師の日本観』) を翻訳、合本版として仙台教会が 2004 年に出版。どういわけか原書には発行年がかかれていない。内容から判断すると、前者は 1965 年以降、後者は 1976 年以降の発行であることは確かである。翻訳者は当時当教会の会員であった大谷淳久さん。

³ 資料(2005/12/21_FuneralNotice_PalmBeachPost)

⁴ W.C.グラント『ワース・C・グラント師の日本観』(日本バプテスト仙台基督教会、2004)、305 頁。週報(2003/06/01)の牧会通信で渡邊真人さんもグラント師について紹介している。

⁵ 同上 132~136 頁

W.C.グラント『主の息吹の中で』(日本バプテスト仙台基督教会、2004)、52 頁

⁶ Kathryn Stephens Grant 1920/8/18 生まれ、1929 年受浸(月日は不明)、2022/1/12 召天
<https://www.palmbeachpost.com/obituaries/pwpb0322445> (閲覧日:2022/5/31)

⁷ 『主の息吹の中で』、12 頁

⁸ 同上 10 頁

⁹ 『ワース・C・グラント師の日本観』、140 頁

¹⁰ 資料(2005/12/21_FuneralNotice_PalmBeachPost)、家族が書いたグラント師の死亡広告記事の中に His eldest daughter Donna passed away in April of this year. とある。長女ドナは 2005 年 4 月に両親に先立ち逝去。1943 年 8 月 4 日生まれなので享年は 61 才。

¹¹ 日本バプテスト連盟 50 年史編纂委員会『日本バプテスト連盟 50 年史』(日本バプテスト連盟、1997)、379~384 頁

¹² 『ワース・C・グラント師の日本観』、187 頁

¹³ 週報(1995/06/11)

¹⁴ 週報(2005/12/18)